

地域防災リーダーアドバンストコース（消火コース）

鶴見消防署研修テキスト



地域防災リーダー研修テキスト実践編をもとに市民の方への防災訓練の指導ポイントとして作成した資料です。

アドバンストコースにおいて研修した内容ですので今後の指導にご活用してください。

可搬式ポンプの始動！

貯水槽のふたの開け方

防火水槽のふた穴に金具を差し込み 90 度回して二人同時に持ち上げる。



《指導のポイント》

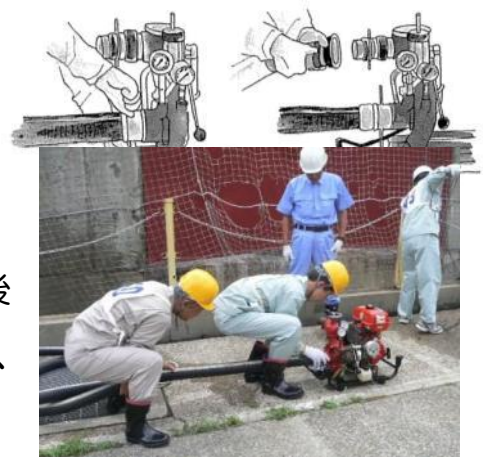
- ふたはかなり重いので、腰などを痛めないように注意を払う。
- ふたの移動は、お互いの息を合わせて慎重に行う。
- ふたを置くときに、足を挟みやすいので注意を払う。
- ふたを開放した後は、転落しないように防護措置をしましょう。
(例)バリカーや、自転車で囲うなど



① 吸管を結合した後、ホースを結合する。

《指導のポイント》

- 吸管は巻いて収容していますので、使用の際は、一度まっすぐの状態に伸ばす。
- 吸管の結合は1人でも行えますが、2人で行うと簡単に行えます。この際、後ろ側の方は前側の人の動きに合わせて、吸管を持ち上げるようにします。

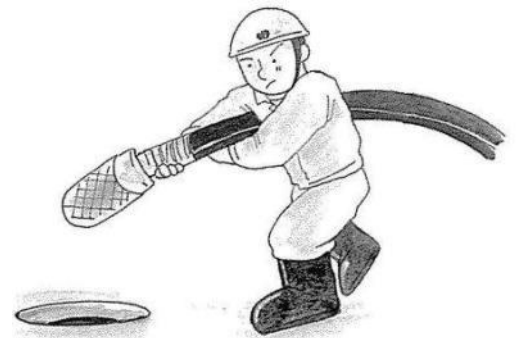


- 吸管は堅くなるまでしめないと、空気が入り、水を汲みあげるこ
とができなくなる場合があるので、確実にしめる。
- ホースの結合は「カチッ」と音がするまで押し込み、外れないか
2～3度引っ張って確認します。

② 吸管を水源へ投入する。

《指導のポイント》

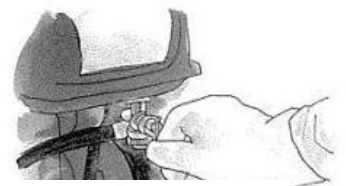
- 吸管投入時、防火水槽への転落危険があ
るので注意してください。
- 吸管の先端が沈んでいるかを確認して
ください。
- 防火水槽や河川、池などの底には汚泥が
たまっている場合があり、吸管の詰まりとなる原因になりますの
で、吸管を底から少し浮かせるようにロープで固定します。
※ P6「プールからの取水要領」参照



③ 燃料コックを開きスロットルを「始動・吸水」位置にする。

《指導のポイント》

- エンジンをかける前に放水弁ハンドル、ドレー
ンバルブの各レバーが閉まっているか確認しま
す。



④ チョークバルブを閉じる。(始動後もどす)

⑤ ティクラーを押して燃料を送る。

《指導のポイント》

- チョークレバー、ティクラーは無い機種もあり
ます。



チョークレバーの操作



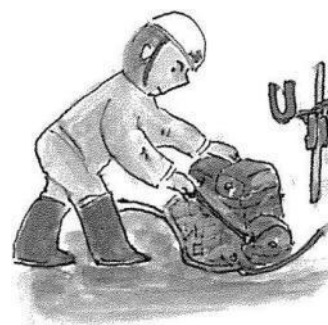
ティクラーの操作

- 運転停止後すぐに再始動する場合は、エンジン不調の原因にもなるので、できる限りチョークを使用しないようにします。

⑥ 始動ロープを引っ張り、エンジンをかける。

《指導のポイント》

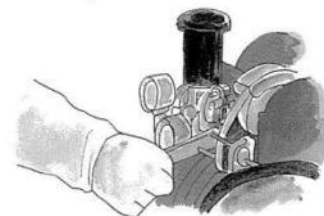
- 始動ロープを引く際は、事故防止のために後ろに人や物が無いか確認する。
- 可搬式ポンプの底部を足で押えて固定する。
- 始動ロープを軽く引き、少し重くなった所から一気に後ろへ引く。



⑦ 真空ポンプを作動させ、吸水する。(排水パイプから水が出れば、もどす)

《指導のポイント》

- 排水パイプから連続して水が出れば吸水完了です。



☆吸水出来ない場合は次の場所を確認して下さい

- ドレインコックが開いている→閉める※
- 放水弁が開いている→閉める※
- 吸管が緩んでいる→締める。
- 吸管が山なりに持ち上がってる。
- 吸管と水源の落差が大きい(5~6m以上)
※位置は「③燃料コックを開きスロットルを「始動・吸水」位置にする」を参照して下さい。

⑧ 放水弁レバーをゆっくり開き放水を開始する。

《指導のポイント》

- 放水弁レバーを急激に開けると、放水隊員が転倒するなど事故に繋がるとともに、ポンプ内の水が抜けてしまい、放水できないことがあるのでゆっくり行います。
- 放水圧力は使用するホース本数やポンプの性能によって異なりますが、最初は0.3~0.4Mpaに設定し、リーダーや放水隊員が放水量が少ないなどで加圧を要請した時はスロットルをゆっくりあげる。

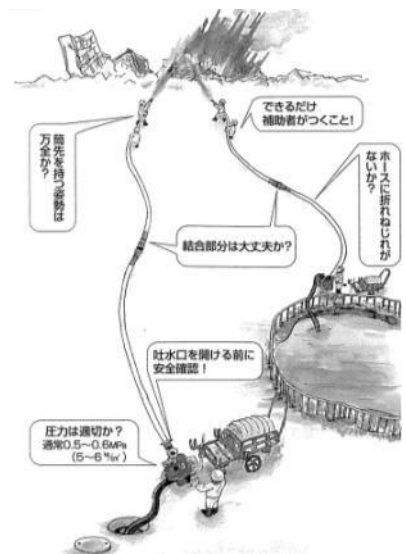
いざっ、放水！

① ホースをのばす

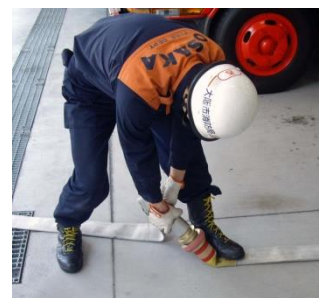
《指導のポイント》

- ホースは1本20mです。目標まで歩数などで距離を測ることができれば、使用する本数がわかり、効率的に伸ばせます。
(1歩70センチなら約30歩で20m)
- 二重巻きのホースをのばす時は受け金具を確実に踏み、差し金具を持ち、前方の安全を確認してのばす。

※ 差し金具を確実に持って伸ばさないと顔面を負傷する危険があります。



- ホースや筒先の接続は「カチッ」と音がするまで確実に押し込み、数回引っ張って抜けないか確認してください。
- ホースが極端に折れたり、ねじれた状態では、十分な放水量が得られない場合があるので、注意してください。



② 放水する

- (1) ホースをのばし、筒先を接続したら、1名は筒先を把持し、もう1名はその後方で筒先の補助し、しっかり把持する。
- (2) リーダーは全体を確認し、放水の準備ができたなら、片手を大きく旋回させながら、「放水はじめ」と放水開始の合図を手信号と号令の両方でポンプ側にする。
- (3) 距離が離れている場合や、障害物等で手信号と号令による合図が届かない時は、リーダーが筒先の補助を交代し、ポンプ側との連絡（以下「伝令」）を指示します。
- (4) 伝令が戻れば、筒先の補助を交代します。



《指導のポイント》

- 接続金具や、ホースから漏水していれば危険ですので、一時停水し、ホースの交換などの対処をした後、放水を再開します。
- 一度通水するとホースは1本あたり70kg以上の重さになるので、次の現場に移動する場合はホースの水を抜いてから転進して

ください。(そのまま移動すると重だけでなく、ホースを損傷します。)

③ 停水・収容

- (1) リーダーは、ポンプ側に手を水平に振り、「停水」と手信号と号令で停水を指示する。
- (2) 距離が離れている場合や、障害物等で手信号と号令による合図が届かない時は、リーダーが筒先の補助を交代し、伝令を指示します。
- (3) ポンプの操作員は、スロットルを戻し、停止スイッチを操作してエンジンを停止する。
- (4) 水が止まればホースの水を抜き、収容する。
- (5) ポンプ側に集合し、ケガなど異常の有無を確認する。

プールからの取水要領

可搬式ポンプが設置されている小中学校のプールは、消防水利として指定されています。

特に屋上等に設置されているプールからは、『採水口』を利用し取水します。

採水口からの取水要領につきましては、次のとおりです。

「採水口」は、道路と面した塀の部分や校舎の外壁にあります。

アクリル板を取り除きます。



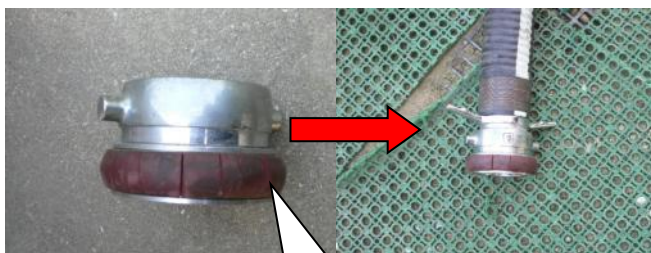
差し金具を引き出します。





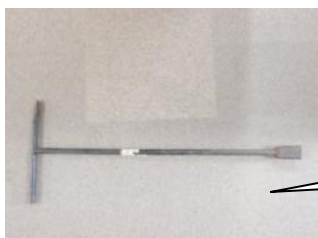
藤籠

ストレーナー



媒介金具

- 吸管の先端から藤籠及びストレーナーを取り除きます。
- 可搬式ポンプ庫内にある媒介金具（受け金具、ネジ式受け金具）を取り付けます。



可搬式ポンプ庫内にあるボックススパナを採水口のバルブ部分に差し込みます。



採水口に吸管とボックススパナを差し込んだ状態。

ボックススパナを回すと取水出来ます。



はずし金具

接続したホースを離脱するため、受け金具側へ押し込むと外れる。

※ 災害時以外で使用する場合は、必ず事前に最寄の消防署と学校側の確認を取ってください。